

# 令和4年度 自己評価 報告書

評価期間 自:令和 3年4月 1日  
至:令和 4年3月31日

令和4年5月21日

専門学校日本デザイナー学院

本報告書は平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局の作成『専修学校における学校評価ガイドライン』及び、特定非営利活動法人私立専門学校評価研究機構の作成『第三者評価システムの概要Ver 4.0』に準拠し実施した。

## 目 次

1. 学校の教育目標と使命	P3
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	P3
3. 点検項目の評価結果	P4～10
(1) 教育理念	P4
(2) 学校運営	P4
(3) 教育活動	P5
(4) 教育成果	P6
(5) 学生支援	P6・7
(6) 施設整備	P7
(7) 学生募集	P7・8
(8) 財務	P8
(9) 法令順守	P8・9
(10) 社会貢献	P9
(11) 国際交流	P9・10
4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P10
(1) 教育評価	P10
(2) 財務評価	P10
(3) 一般的評価	P10

## 1. 学校の教育目的と使命

目的：「生活と文化に携わる有能なクリエイターを育成する」ことを目的とする。

使命：職能上必要とされる技能を履修させ、教養を積み、同時に人間形成に努め  
社会人としての自覚と責任を持つ人材の育成を使命とする。

### 【職能的指導方針】

1. 基礎知識、技術の習得
2. 専門基礎知識、技術の習得
3. 専門知識、技術の習得

プロとしての基本知識と技術の習得、創造性豊かな人材育成を教育指導方針とする。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・教育内容の整備:各学科ごとに教育内容の見直しを図り業界のニーズに合わせた高付加価値教育の徹底を行う。
- ・学習環境の整備:オンライン教育の整備と様々な感染症対策など学生安心して学ぶことができる環境を整備し学生の学びを深める
- ・情報公開の整備:学園の基本情報等を公開し、外部の方へからへの透明性と理解度を高める。

### 3. 自己点検・評価項目の結果

#### (1) 教育理念に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
1-1)	教育理念・教育目標は示されているか	4…適切
1-2)	学校の特色は示されているか	4…適切
1-3)	学校の将来構想は示されているか	4…適切
1-4)	学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか	3…ほぼ適切
1-5)	各科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3…ほぼ適切

#### ①課題

〔 保護者に対する理念・目的・特色の周知徹底。 〕

#### ②今後の改善方策

〔 保護者会での周知を強化していく。 〕

#### ③特記事項

〔 前年度と比較し細かいポイントでの評価も上がっている。 〕

#### (2) 学校運営に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
2-1)	運営方針は定められているか	4…適切
2-2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4…適切
2-3)	運営組織や意思決定機能は示されており機能的な構成となっているか	4…適切
2-4)	人事や給与での処遇に関する制度は整備されているか	4…適切
2-5)	意思決定システムは確立されているか	4…適切
2-6)	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4…適切
2-7)	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4…適切
2-8)	情報システム等による業務の効率化が図られているか	4…適切

#### ①課題

〔 〕

#### ②今後の改善方策

〔 〕

③特記事項

全項目で4ポイントを獲得することが出来た。今年度も透明化された学校運営ができるよう徹底していく。

(3) 教育活動に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
3-1)	教育活動は教育理念等に沿った編成・実施方針となっているか	4・・・適切
3-2)	カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか	3・・・ほぼ適切
3-3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4・・・適切
3-4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが反映されているか	3・・・ほぼ適切
3-5)	定期的カリキュラムの見直しはなされているか	4・・・適切
3-6)	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	3・・・ほぼ適切
3-7)	成績評価の基準は明確になっているか	3・・・ほぼ適切
3-8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3・・・ほぼ適切
3-9)	授業評価は実施されているか	4・・・適切
3-10)	資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか	4・・・適切
3-11)	人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか	4・・・適切
3-12)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3・・・ほぼ適切
3-13)	関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか	3・・・ほぼ適切
3-14)	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3・・・ほぼ適切

①課題

- ・講師それぞれの立場による業界の在り方が異なり、教育目的・方針など教育内容の理解
- ・講師研修、職員研修の充実

②今後の改善方策

- ・講師分科会等における意見集約および詳細な説明
- ・オンラインも活用した研修制度の充実

③特記事項

全体として前年度よりも評価は上がっている。細かな説明等を行いより理解を深めてもらう必要がある。

(4) 教育成果に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
4-1)	就職率を向上させるための施策は図られているか	3・・・ほぼ適切
4-2)	資格取得の向上が図られているか	3・・・ほぼ適切
4-3)	退学者を減らすための施策は図られているか	3・・・ほぼ適切
4-4)	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3・・・ほぼ適切
4-5)	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3・・・ほぼ適切

①課題

〔 ・求人企業の新たな改革  
・学生が抱える本質的な悩みの把握(細かな面談等だけでは把握が難しいケースがある) 〕

②今後の改善方策

〔 ・企業訪問の徹底  
・カウンセリング等の研修を行い、本質的な学生の悩みを聞き出す 〕

③特記事項

〔 新型コロナウイルス感染症の影響により各企業の採用基準が高まっていると共に採用人数が限定されている。キャリア戦略により学生の就職に対する意識は高まっているので結果につながるよう受け皿を増やすことも必要。 〕

(5) 学生支援に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
5-1)	就職に関する支援体制は整っているか	3・・・ほぼ適切
5-2)	学生相談などの支援体制は整っているか	3・・・ほぼ適切
5-3)	学生への奨学金等の経済的支援は整っているか	4・・・適切
5-4)	学生の健康管理に関する支援体制は整っているか	4・・・適切
5-5)	課外活動に関する支援体制は整備されているか	3・・・ほぼ適切
5-6)	学生の生活環境への支援体制は整備されているか	3・・・ほぼ適切
5-7)	保護者と適切に連携しているか	3・・・ほぼ適切
5-8)	卒業生への支援体制はあるか	3・・・ほぼ適切
5-9)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3・・・ほぼ適切
5-10)	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3・・・ほぼ適切

①課題

〔 講師・職員への一定した情報共有 〕

②今後の改善方策

〔 CrassRoomを活用した情報共有。学生支援の在り方を項目ごとに掲示を行い理解度を高める。 〕

③特記事項

〔 職員・講師の理解度の違いが自己評価に影響している。 〕

(6) 施設設備に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
6-1)	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか	3・・・ほぼ適切
6-2)	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3・・・ほぼ適切
6-3)	防災体制は整っているか	4・・・適切

①課題

〔 古くなった機材の入れ替え。 〕

②今後の改善方策

〔 新規機材を購入することが決まっている。 〕

③特記事項

〔 〕

(7) 学生募集と受け入れに関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
7-1)	学生募集の活動は希望者の意向を配慮し適切に行われているか	4・・・適切
7-2)	教育内容を適切に学生募集に反映しているか	4・・・適切
7-3)	入学選考の時期・基準・方法は適正か	4・・・適切
7-4)	納付金は妥当なものとなっているか	4・・・適切

①課題

〔 専門的な分野に特化した学園のため、学校認知度を高めることが難しい。 〕

②今後の改善方策

[ オンラインも活用した学校認知度の向上。 ]

③特記事項

[ ]

(8) 財務に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
8-1)	中長期的な財務基盤は安定しているか	4・・・適切
8-2)	予算・収支計画は有効かつ妥当か	4・・・適切
8-3)	会計監査は適正に行われているか	4・・・適切
8-4)	財務情報公開の体制整備はできているか	4・・・適切

①課題

[ 特になし ]

②今後の改善方策

[ ]

③特記事項

[ 学園本部と連携し予算・収支計画の管理を行い外部監事による経理監査など、財務基盤に関わる業務について徹底して整備されている。 ]

(9) 法令順守に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
9-1)	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4・・・適切
9-2)	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	4・・・適切
9-3)	自己評価の実施と問題点について改善に努めているか	4・・・適切
9-4)	自己評価結果を公表しているか	4・・・適切

①課題

[ ]

②今後の改善方策

[

③特記事項

[

講師・職員への理解度も高まり高評価を得ている。

(10) 社会貢献に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
10-1)	教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか	4…適切
10-2)	学生のボランティア活動に対する支援は整備されているか	3…ほぼ適切
10-3)	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3…ほぼ適切

①課題

[

新型コロナウイルス感染症による活動制限を考慮した上での実施。

②今後の改善方策

[

今年度は感染者の状況を考慮しながら積極的に実施する。

③特記事項

[

(11) 国際交流に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
11-1)	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3…ほぼ適切
11-2)	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4…適切
11-3)	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4…適切
11-4)	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3…ほぼ適切

①課題

[

新型コロナウイルス感染症による留学生の受け入れ。

## ②今後の改善方策

[

## ③特記事項

[

留学生の入国の状況等、日本政府の判断を見つつ対応する必要がある。日本語学校の学生数減少の影響も大きく受けるため状況を注視しつつ的確に判断する必要がある。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

### (1) 教育評価

新型コロナウイルス感染症の影響は収まることはなく、少なからず影響を受けた1年となった。しかし感染症対策の徹底やオンラインシステムの充実等、新型コロナウイルス感染症への基本的対策が整ったこともあり、前年度からは大きく前進した1年となった。対面授業を基本とした授業を実施し、完全オンラインでの授業は極短期間に収めることも成功。入学式、SWS、学園祭、卒業作品展、卒業式等、大きなイベントも無事に実施することが出来た。就職活動や特別講義、個別面談、体調不良時の授業参加などオンラインの特性を活かすことも出来た。今後は教育効果をより高めるために質と結果を追求することを重視していきたい。そのために随時教育内容の見直しを図り高付加価値教育の質を高めていく。また、マレーシア校の開校も確定し、マレーシア校にも新入生が入学することから、マレーシア校との連携も強化し、日本だけではなく海外でも活躍し続けることができる人材育成に引き続き注力していく。

### (2) 財務評価

定期的に経理監査を行い抜け漏れ、ミス等のチェックを行っている。理事会・評議員会で決算報告や予算報告等を行い承認を受けている。適正な予算・収支計画に基づき安定的な運営を行っている。

### (3) 一般的評価

今年で54年目を迎えるデザインの専門学校として数々の実績を残してきた。九州地区でも有数のデザイン専門学校といえる。新型コロナウイルス感染症の影響は少なからず受けたものの感染症対策を徹底し大きく前進することが出来た。しかし外的要因の影響も大きく実施を断念するイベントや就職活動の苦戦は避けることが出来なかった。その中でも賞の受賞や志望企業への就職など一定の結果を出せたことは評価ポイントである。学園全体として掲げている「高付加価値教育」「オンラインの活用」「マレーシア校の開校」は大きく進展を遂げており今年度も重点的に注力していく。九州で優秀な実績を残している講師を多く迎え、講師陣のさらなる充実を図ることができたこと、若手職員も経験を積み全体の職員スキルも飛躍的に向上していることも踏まえ、さらなる質と結果を追求していく。マレーシア校開校も確定したため、グループ4校の教職員連携をさらに強化し、高付加価値教育を各校学生に提供できるよう引き続き取り組んでいく。

